

2. 調査結果

2.1 2020オリンピック・パラリンピック招致について

(1) 2020オリンピック・パラリンピック招致の結果について

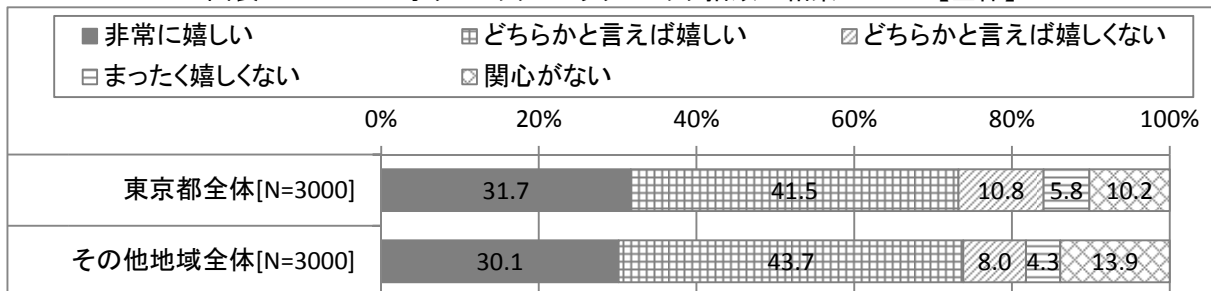
2020年のオリンピック・パラリンピックの開催都市が、東京に決まりました。その結果について、どう思いますか。

2020年のオリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決まったことについて、どう思うかを尋ねたところ、東京都では、「非常に嬉しい」が31.7%、「どちらかと言えば嬉しい」が41.5%であり、合計で73.2%が嬉しいと思っていることがわかった。

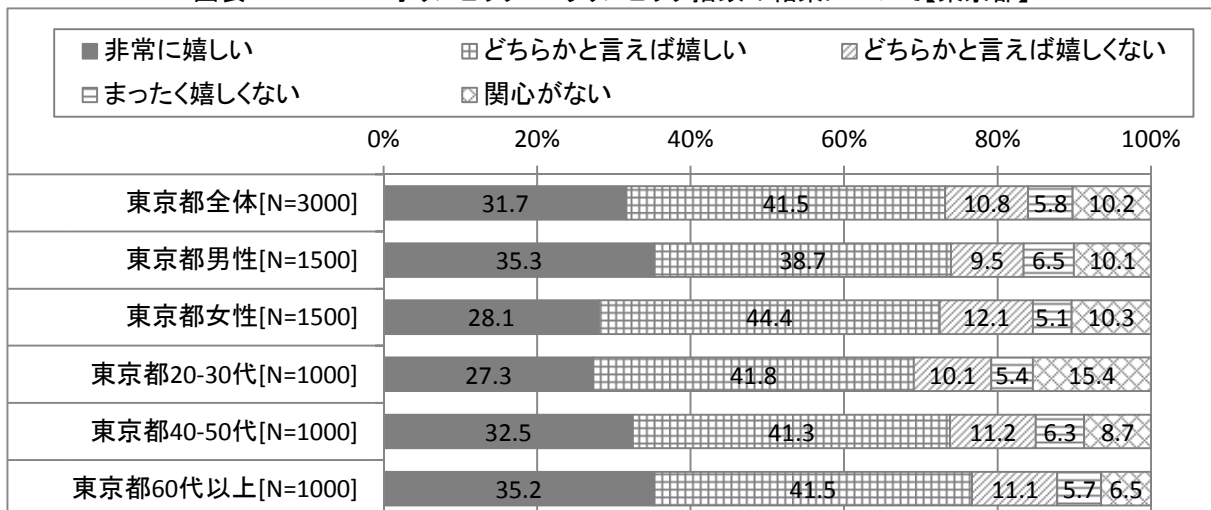
その他地域では、「非常に嬉しい」が30.1%、「どちらかと言えば嬉しい」が43.7%であり、合計で73.8%が嬉しいと思っていることがわかった。

性別、年代別にみると、東京都、その他地域ともに、女性より男性のほうが嬉しいと思っている者の割合が高く、年代が上になるほど嬉しいと思っている者の割合が高い傾向がみられた。

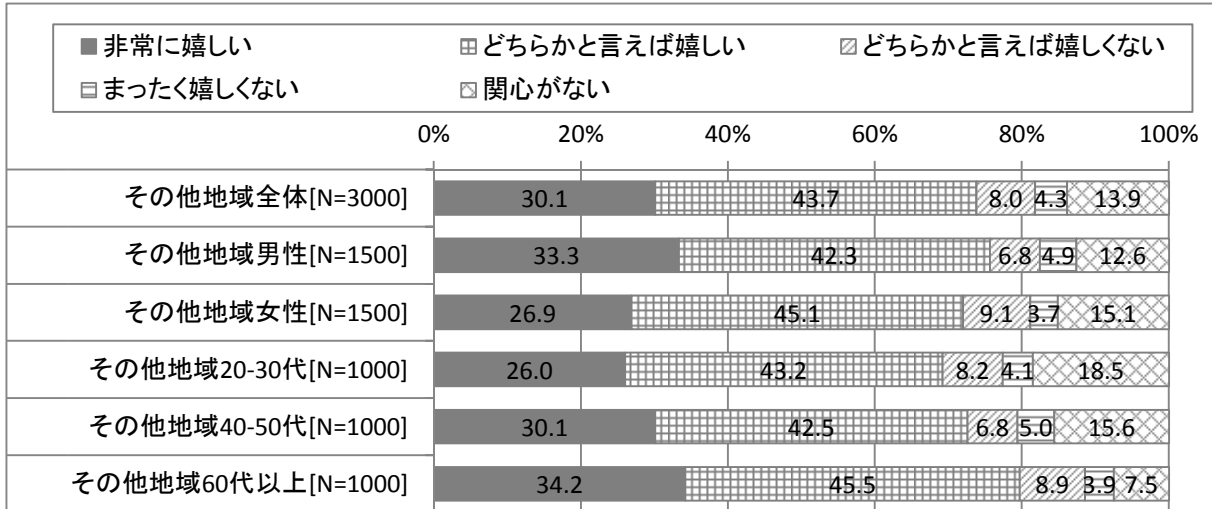
図表 2-1 2020オリンピック・パラリンピック招致の結果について【全体】



図表 2-2 2020オリンピック・パラリンピック招致の結果について【東京都】



図表 2-3 2020オリンピック・パラリンピック招致の結果について【その他地域】



(2) 2020オリンピック・パラリンピック招致に関する取組の認知

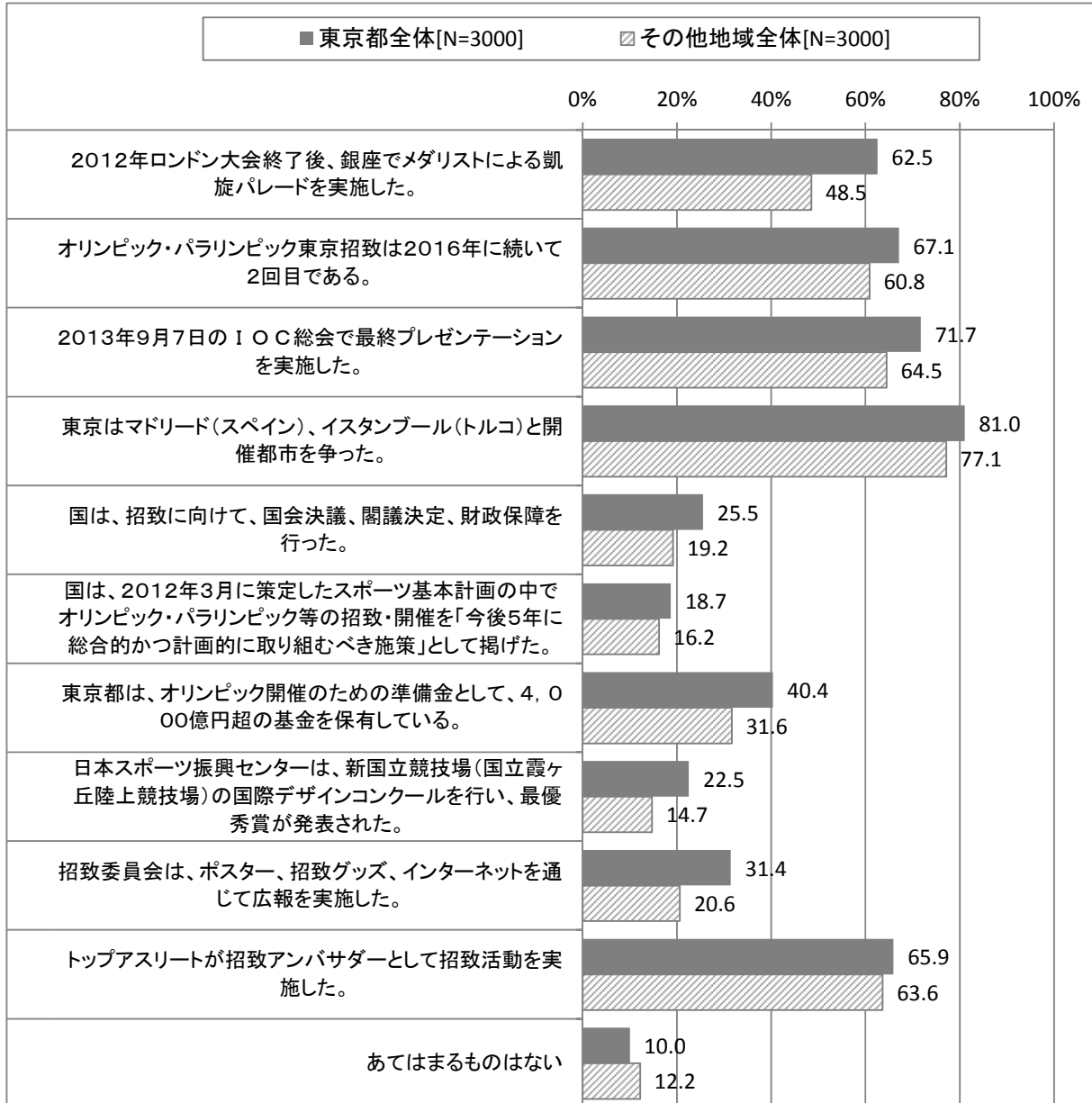
2020年オリンピック・パラリンピックの招致に関する事柄について、知っていたものをお選びください。

2020年オリンピック・パラリンピックの招致に関する事柄の認知を尋ねたところ、東京都では、最も認知度が高いのは「東京はマドリード（スペイン）、イスタンブール（トルコ）と開催都市を争った」の81.0%、次いで、「2013年9月7日のIOC総会で最終プレゼンテーションを実施した」（71.7%）、「オリンピック・パラリンピック東京招致は2016年に続いて2回目である」（67.1%）であった。また、最も認知度が低いのは、「国は、2012年3月に策定したスポーツ基本計画の中でオリンピック・パラリンピック等の招致・開催を「今後5年に総合的かつ計画的に取り組むべき施策」として掲げた」の18.7%であった。

その他地域では、最も認知度が高いのは「東京はマドリード（スペイン）、イスタンブール（トルコ）と開催都市を争った」の77.1%、次いで、「2013年9月7日のIOC総会で最終プレゼンテーションを実施した」（64.5%）、「トップアスリートが招致アンバサダーとして招致活動を実施した」（63.6%）であった。また、最も認知度が低いのは、「日本スポーツ振興センターは、新国立競技場（国立霞ヶ丘陸上競技場）の国際デザインコンクールを行い、最優秀賞が発表された」の14.7%であった。

東京都とその他地域を比較すると、すべての事項において、東京都のほうが認知度が高かった。

図表 2-4 2020オリンピック・パラリンピック招致に関する取組の認知

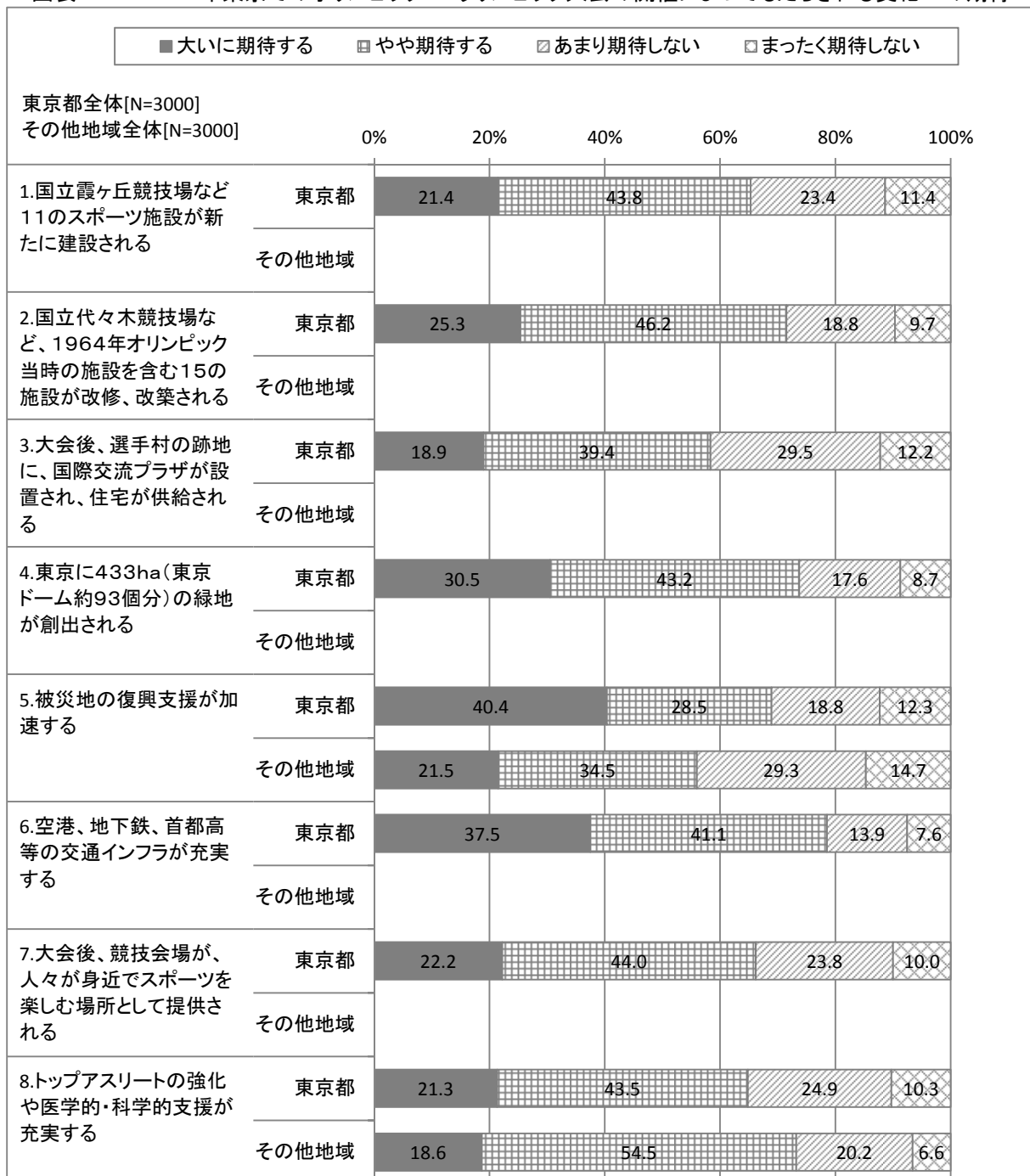


(3) 2020東京オリンピック・パラリンピックがもたらす変化への期待

2020年東京でのオリンピック・パラリンピック大会の開催によって、もたらされる変化について、どの程度期待しますか。

2020年東京でのオリンピック・パラリンピック大会の開催によってもたらされる変化への期待について尋ねたところ、東京都では、「大いに期待する」の割合が最も高いのは、「被災地の復興支援が加速する」の40.4%で、次いで、「経済波及効果や雇用が創出される」(38.4%)、「バリアフリーの導入など、ユニバーサルデザインの考え方に基づく街づくりが進む」(33.7%)であった。また、「まったく期待しない」の割合が最も高いのは、「被災地の復興支援が加速する」の12.3%であった。

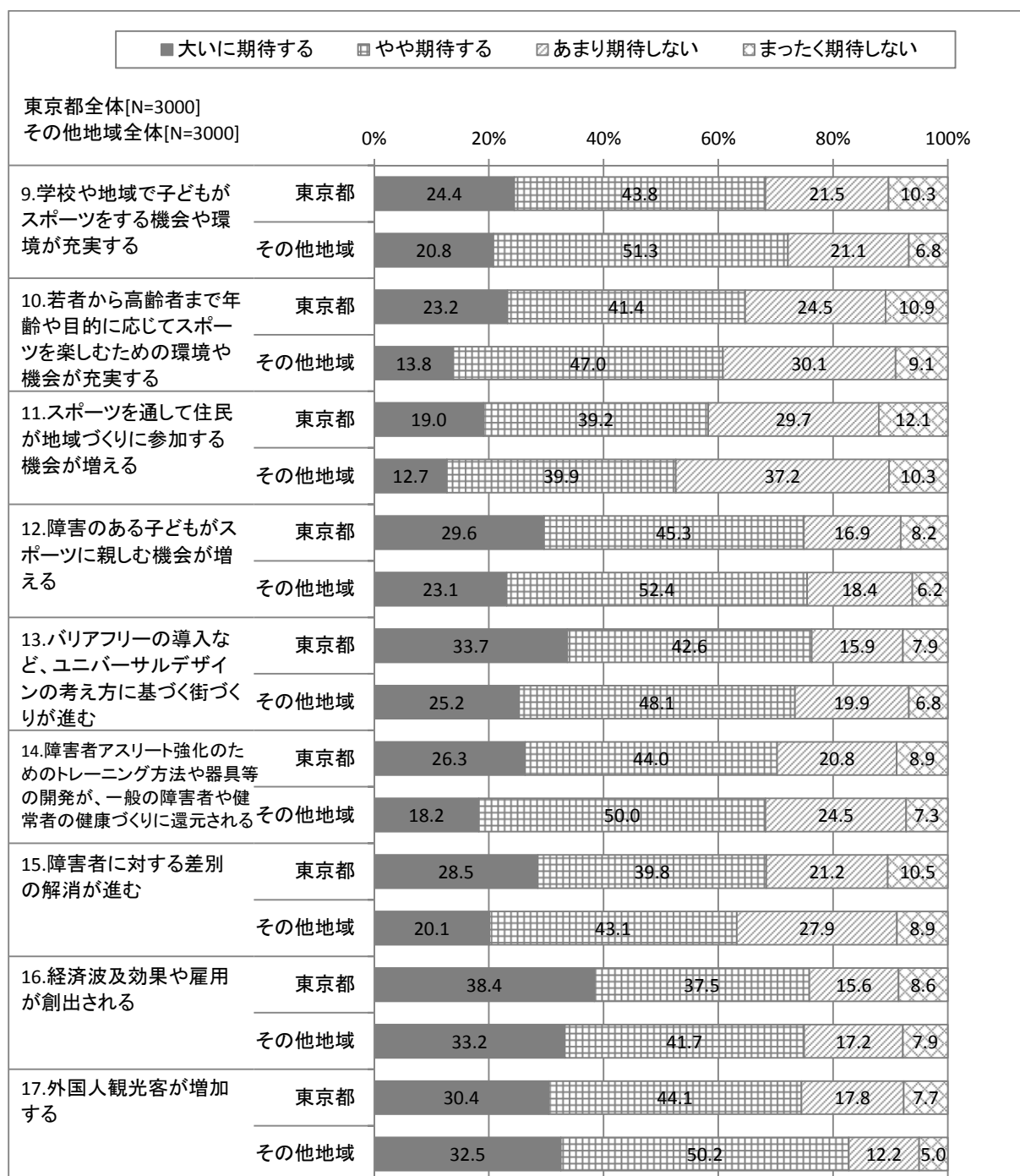
図表 2-5 2020年東京でのオリンピック・パラリンピック大会の開催によってもたらされる変化への期待



その他地域では、「大いに期待する」の割合が最も高いのは、「経済波及効果や雇用が創出される」の33.2%で、次いで、「外国人観光客が増加する」(32.5%)、「バリアフリーの導入など、ユニバーサルデザインの考え方に基づく街づくりが進む」(25.2%)であった。また、「まったく期待しない」の割合が最も高いのは、「被災地の復興支援が加速する」の14.7%であった。

東京都とその他地域を比較すると、双方に質問した11項目のうち、10項目で東京都のほうが「大いに期待する」の割合が高かった。また、東京都とその他地域で「大いに期待する」の回答に最も大きな差がみられたのは、「被災地の復興支援が加速する」の18.9ポイント（東京都が40.4%、その他地域が21.5%）であった。

(続き)



(4) 2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア参画意向

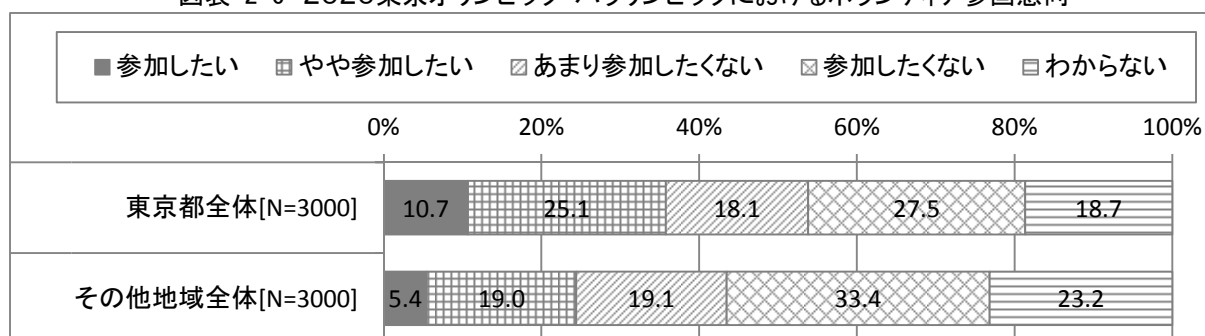
2020年東京でのオリンピック・パラリンピック大会の運営を支える、ボランティア活動に参加したいと思いますか。

2020年東京でのオリンピック・パラリンピック大会の運営を支える、ボランティア活動に参加したいと思うかを尋ねたところ、東京都では、「参加したい」が10.7%、「やや参加したい」が25.1%であり、合計で35.8%が参加したいと思っていることがわかった。

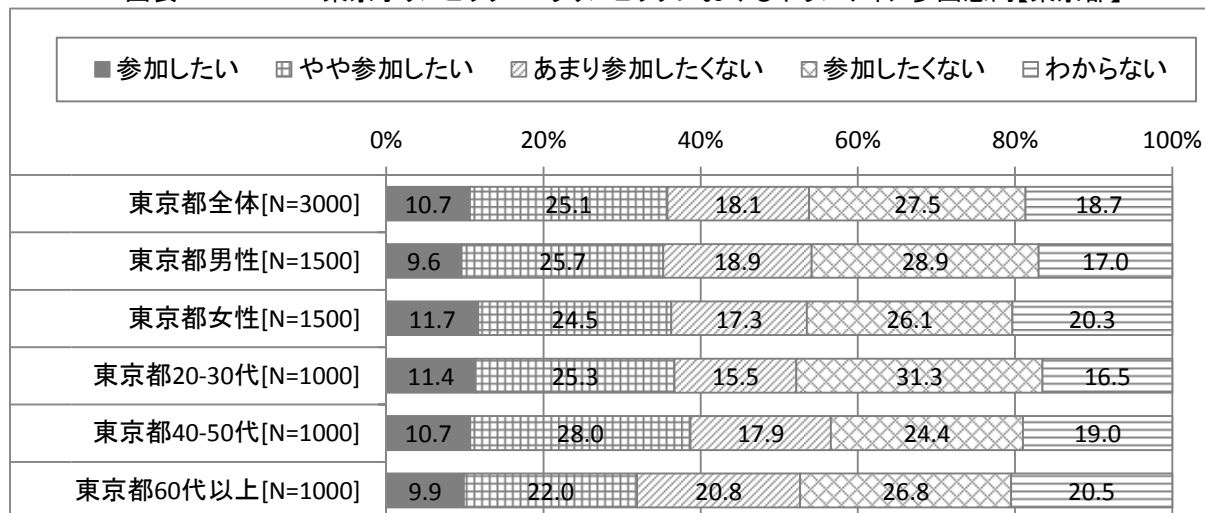
その他地域では、「参加したい」が5.4%、「やや参加したい」が19.0%であり、合計で24.4%が参加したいと思っていることがわかった。

性別、年代別にみると、東京都、その他地域ともに、40-50代が参加したいと思っている者の割合が高い傾向がみられた。

図表 2-6 2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア参画意向



図表 2-7 2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア参画意向【東京都】



図表 2-8 2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア参画意向【その他地域】

